PART2　変格活用の動詞・公式で見分ける動詞・行の考え方

カ行変格活用＝「**来**(く)」・「**～来**」（→「まうで来」など。）

サ行変格活用＝「**す**」「**おはす**」「**ものす**」

※それ以外のサ変

●「**～す**」の「す」が「**する**」と訳せるもの
（例）「旅す」など

●「**漢字一字の音読み＋す**」
（例）「奏(そう)す」「具(ぐ)す」など

●「**～んず**」の形＝サ変が多い
（例）「信ず」「案ず」「論ず」など

ナ行変格活用＝「**死ぬ**」「**往**(い)**ぬ**」「**去**(い)**ぬ**」

ラ行変格活用＝「**あり**」「**居**(を)**り**」「**侍**(はべ)**り**」「**いまそかり**」
（「いまそがり・いますかり・いますがり」などもラ変。）

問一　「居る」の活用の種類を答えよ。

問二　動詞ａ・ｂの活用の種類と活用形として最も適当なものを、次の中からそれぞれ選べ。

すでに死なん[a]とす。

「射る[b]事なかれ」

〔活用の種類〕

①　ナ行四段　②　ナ行上二段　③　ナ行変格

④　ラ行四段　⑤　ヤ行上一段　⑥　ワ行上一段

〔活用形〕

ア　未然形　イ　連用形　ウ　終止形　エ　連体形　オ　已然形　カ　命令形

ａ＝　・

ｂ＝　・

問三　傍線部と活用の種類が同じ動詞を、次の中から一つ選べ。

いかにあらまほしく思し召し候ふこと侍るとも、…

ア　漏れ聞き候ふべく候ふ。

イ　嫌(もど)き誹(そし)りぬべからむこと、…

ウ　心のうちも推し測らるるものにて候ふ。

エ　また、知る人、すずろに…

オ　花のやうに春ある人は、一盛り映えあるやうに…

問四　「そこになむ市の立ちけるに［　　］。」の空欄に入る言葉として、最も適当なものを次の中から一つ選べ。

ア　侍り　　イ　あり　　ウ　侍る　　エ　侍れ　　オ　あれ

★活用の種類の見分け方　その② 「覚えておくべきもの以外」

「ず（＝ない）」をつけて、**上の音で判断**する。

a＋ず→「　**段**」活用　（例）「咲く」→「咲**か**ず（咲**か**ない）」

i＋ず→「　**段**」活用　（例）「起く」→「起**き**ず（起**き**ない）」

e＋ず→「　**段**」活用　（例）「答ふ」→「答**へ**ず（答**へ**ない）」

★何行？

・**一段**活用は基本形の「**る**」の「**上**」の文字の行

（例）「**見**る」＝　行上一段活用

「**蹴**る」＝　行下一段活用

・一段活用以外は基本形の「**最後**」の文字の行

（例）「咲**く**」＝　行四段活用

問五　傍線部ａ・ｂの、１　活用の行　２　活用の種類は何か。次の中からそれぞれ一つずつ選べ。

いと多く死にけるは。[a]
君となりて過ぎむ…[b]

１　ア　ガ行　イ　サ行　ウ　タ行　エ　ダ行　オ　ナ行　カ　ラ行

２　ア　四段活用　イ　上一段活用　ウ　上二段活用
　　エ　下一段活用　オ　下二段活用　カ　変格活用

ａ　１＝　　２＝

ｂ　１＝　　２＝

問六　傍線部ａ・ｂの、１　活用の行　２　活用の種類　３　活用形は何か。次の中からそれぞれ選べ（重複使用可）。

人も[a]見ず。
うち[b]笑みて、…

１　ア　ア行　イ　ハ行　ウ　マ行　エ　ヤ行　オ　ラ行　カ　ワ行

２　ア　四段活用　イ　上一段活用　ウ　上二段活用
　　エ　下一段活用　オ　下二段活用　カ　変格活用

３　ア　未然形　イ　連用形　ウ　終止形　エ　連体形　オ　已然形　カ　命令形

ａ　１＝　２＝　３＝

ｂ　１＝　２＝　３＝

第３講　PART２　確認問題

①　傍線部の動詞について、活用の種類・活用形の組み合わせとして適切なものを、次の中から一つ選べ。

「いもがしらといふ物を好みて、多く食ひけり。」

ア　ナ行四段活用・連体形　　イ　マ行四段活用・連用形
ウ　マ行上一段活用・連用形　　エ　カ行変格活用・終止形

②　傍線部の動詞について、活用形として適切なものを、次の中から一つ選べ。

「按察使（あぜち）の大納言のいで給へるほどにおはして、…」

ア　未然形　　イ　連用形　　ウ　終止形　　エ　連体形　　オ　已然形　　カ　命令形

③　「取り分かつべくも侍らず」の「侍ら」と同じ活用をする動詞として、適切なものを次の中から一つ選べ。

ア　天皇の所に奏す。　　イ　やがて引き結びてたてまつる。
ウ　君まさに死なむとす。　　エ　つれづれとこもり居りけり。

④　傍線部を現代語訳したものとして、適切なものを次の中から一つ選べ。なお、「てふ」とは「と言ふ」が変化したものである。

「恋すてふ　わが名はまだき　立ちにけり　人知れずこそ　思ひそめしか」

ア　恋であったと言う　　イ　恋になったと言う　　ウ　恋をしていると言う　　エ　恋しいと言う

⑤　「帝に、かくなむありつると奏しければ…」の傍線部について、活用の種類として適切なものを、次の中から一つ選べ。

ア　サ行変格活用　　イ　サ行四段活用　　ウ　サ行上二段活用　　エ　サ行下二段活用

⑥　「人の田を□者、…」の空欄に入るものとして、適切なものを次の中から一つ選べ。

ア　論ず　　イ　論じる　　ウ　論ずる　　エ　論ずれ

第３講　PART２　解答

問一　ワ行上一段活用

問二　a　③・ア
b　⑤・エ

問三　オ

問四　ウ

問五　a　１　オ　２　カ
b　１　ア　２　ウ

問六　a　１　ウ　２　イ　３　ア
b　１　ウ　２　ア　３　イ

第3講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① 「ず」をつけると、「好まず」となるのでマ行四段活用。下を見ると、接続助詞「て」があるので、活用形は連用形。ただし、接続助詞は未学習のため、四段活用の仕方で考えることも可能。

② サ行変格活用の動詞は、「す」・「おはす」・「ものす」。活用の仕方を考えると、「せ／し／す／する／すれ／せよ」になるので、正解はイ。

③ ラ行変格活用の動詞は、「あり」・「居(を)り」・「侍り」・「いまそかり」（「いまそがり・いますかり・いますがり」なども）である。よって、正解はエ。

④ 「恋す」は「恋」＋「す（サ変動詞）」で、「恋をする」と訳す。問題文を参考に、「てふ」は「と言う」と訳せばよいので、正解はウ。

⑤ 「漢字一字の音読み＋す」は、サ行変格活用の動詞になる。よって、正解はア。

⑥ 「～んず」の形＝サ変が多い（例「信ず」・「案ず」・「論ず」など）ことを押さえる。空欄の下を見ると体言があるので、活用形は連体形。活用の仕方で考えると、「ぜ／じ／ず／ずる／ずれ／ぜよ」なので、正解はウ。

〔解答〕

① イ　② イ　③ エ　④ ウ　⑤ ア　⑥ ウ